

(アピール)

福井を第2のフクシマにしてはならない！

福島原発災害が発生してから丸7年目の今日、私たちは、このハピテラスに集まり、福井を第2の福島にしてはならないとの思いを強めました。

ご登壇いただいた方がた、及び、また、ご参集の皆さま、本日は誠に疲れ様でした。ありがとうございました。

さて、今日、新しく学習し、訴えたいことを申し上げます。

(1) 関西電力は、3月14日に 大飯原発3号機を、数週間遅れて4号機を再稼働しようとしていますが、国民の過半数が再稼働に反対しています。

ご参集のみなさん！私たちは、満身の怒りを込めて「大飯原発の再稼働を許さないぞ！」と声をあげ、大きな抗議行動を起こしましょう！

(2) 私たちは、ふげん、もんじゅ、敦賀1号機、美浜1・2号機、高浜1・2号機(7基)の廃炉決定を勝ち取ってきました。福井県内で残っているのは8基だけです。いずれも、すでに老朽化し、新規性基準すら満たしていません。従って、8基とも廃炉とすべきです。

(3) 安倍政権は、閣議決定したエネルギー基本計画に沿って、全国的に老朽炉を延長運転したり、30基ほど(その中には敦賀3・4号機を含む)を新增設したりしようとしています。また、次世代原子炉を開発しようとしています。私たちは、そのようなことを到底認めることができません。

(4) 日本の規制委員会は、福島原発災害について全く反省もせず原因究明もしないまま、原発推進をしています。そもそも日本の規制基準は、IAEA(国際原子力機関)が定めている多層防護のレベル1~3.5(レベル3の前半)しか規定していません。最高レベル5には全く届かないもので、国民の安全を守るための規制(原発の運転を停止させ廃炉とする)の役目を果たさない、いわゆるザル法なのです。

(5) 安倍政権は、「世界一厳しい規制基準」をクリアした原発を「再稼働する」と言っていますが、上記の通り、「世界一厳しい」というのはウソです。規制委員会が規制基準に適合したと言っても、原発の重大事故が起こる可能性を否定することはできません。つまり、重大事故が発生した場合、原発システムの安全防護ができませんし、放射性環境汚染を回避できません。住民は安全に避難することもできません。



- (6) 安倍政権と原子ムラは、「原発コストは安い」「原発はクリーン」などと言っています。そんなことはごまかしに過ぎないことを、私たちは知っています。すなわち、核のゴミの処理処分の場所も技術も全くないことや、原発コストが極めて高いこと、原発は最大の環境汚染源であることを知っています。ご承知の通り、核のゴミ（放射性核廃棄物）の処理処分には10万年以上の長い期間がかかり、必要な費用は計算できないほど高くつきますし、管理責任をとれる人もいません。
- (7) 原発裁判では、福井地裁が大飯原発3・4号機の運転差止仮処分決定、大津地裁が高浜原発3・4号機の運転差止仮処分決定、広島高裁が伊方原発3号機の運転禁止命令を出すなど、司法が原発を止めるという画期的な判決を出しています。私たちは、間違えた安全神話に基づく反動的な判決が出ないように、民主的で公平公正な裁判官と住民側弁護士を支援していきましょう！
- (8) 新潟県の米山隆一知事は、新潟県民の支持を得て、自然エネルギー利用促進と原発のない社会づくりに取り組んでいます。一方、福井県の西川一誠知事は、私たちの「原発再稼働を認めないでください」という要請を全く受け入れず、暴走する反知性的独裁者・安倍晋三首相にすり寄って原発再稼働を容認しています。福井県民（日本国民）の声を全く聞かない政治指導者など百害あって一利なしです。私たちは、大同小異・一丸となって「脱原発」を実現する指導者（福井県知事と首相）を選び出さなければなりません。
- (9) 原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟（原自連）や原子力市民委員会が提案し、立憲民主党など諸野党が国会に上程しようとしている「原発ゼロ法案」について、私たちは前向きに議論を深めるべきでしょう。
- (10) 安倍政権は、すでに経済的にも技術的にも破綻しているはずの核燃料サイクル（再処理工場の運転）を続けようとしています。その強引な目的は、核兵器への転用に必要なプルトニウムをとり出し、日本も核兵器を持ちたいためです。戦争は絶対悪ですから、この企ては絶対に許されません。
- (11) 福島原発災害の根本問題は、原発から放出された放射性物質による放射能健康障害と環境公害にあります。福島における惨禍を二度と繰り返してはなりません。以上をまとめて、私たちは「福井を第2のフクシマにしてはならない！」と訴えます。



2018年3月11日（日）
「第7回さよなら原発福井県集会2018 in ふくい
原発のない新しい福井へ